

永久に変わらぬ軽井沢の宝

揺らぐ世界のブランド

聖地・軽井沢21世紀の

新たな理想郷を模索

煙たなびく活火山・浅間山



世界に誇るブラン
ド・「聖地軽井沢」が、
注目され、憧がられ、
大切に思われているが
ゆえに、今大きくゆれ
ている。

長野県の最有力紙
「信濃毎日新聞」も今
年の1月1日号から
「シヨ一の見た夢」軽
井沢特集を組み、記事
を掲載し続けている。
地元も「国際景観会議
2008」を開催する
など、軽井沢の未来を
模索している。

自然に融合させ自然
を邪魔しないようにひ
み、リッチさを際立た
せるような新しい豪華
な別荘オーナーの増加。
明治以来、若者人気
を支えてきたスケート
とテニスブームが去
り、これまでの保養休
養地としての滞在客と
は全く異なるシヨッピ
ング目当てだけの、プ
リンシアウトレットモ
ールへの膨大な入り込
み客。その客の旧軽井
沢への流れ込み。自然
とアウトレットの両方
を目的に来る観光客の
増大により、恩恵を受
け息を吹き返した旧軽
井沢商店街。

健康的な別荘生活と
シヨッピングや飲食の
両方を楽しむ新しい別
荘客や、従来の高齢化し
た保養客の子や孫、新た
な若い息吹が吹き込ま
れだした半面、それにと
もなう生活や好み、楽し
み方の変化、車の渋滞。
日帰り客の増加。

注目されるのが、清
涼な空気や緑、健康的

昔からの避暑保養客と 21世紀型の新しい客が混在

活火山・浅間山の雄姿とたなびく煙。清涼な空気と水。緑の樹木。苔を主人公に、健康的ですががしく心地よい春・初秋の気候。清潔で静かな夜。大金持ちでも、名士でも暗黙の約束事のように、緑の中に融け込み、目立たず、はにかむようにひっそり佇む質素な別荘や、教会・ホテル・テニスコート。多少不便でも、その不便を楽しむプライドとする。質素で、清潔で、心癒される気候風土。異なる宗教が互いに尊重しあいながら同居し、外国人も抵抗なく入っている町の雰囲気。時代により、どんなに軽井沢の使命、町の姿が変わって、いこうとも永遠に変わることなく守りぬかなければならない軽井沢の宝。



清涼な空気と水と緑(二手橋から)

東京が通勤・通学圏内になり、定住人口が増加



明治39年に開業した旧三笠ホテル(重要文化財)

明治21年に別荘第1号

江戸時代までは中山道の宿場町。明治16年、鉄道王・雨宮啓次郎が雨宮新田開発に着手。明治17年碓氷振動の開通で、宿場町は見捨てられたように寂れる一方。

明治十九年(1886)軽井沢立ち寄り、英領カナダのトロント生まれの英国人宣教師A.C.シヨイは、故郷スコットランドやトロントによく似た、清涼な空気や水に、故郷を偲び魅せられ7月初旬に家族とともに再び軽井沢を訪れ、とりあえず高林董平の居宅を借り2ヶ月間の避暑を試みた。

朝夕のすがすがしさ、朝のさわやかな涼しさを求め、南東の季節風が碓氷の坂を上昇する時に生ずる霧を見て、故郷に似たまったくの別天地を発見し、すつかり気に入ってしまう。

シヨイと相前後し軽井沢にきた、東京帝国大学講師のデイクソンも佐藤万平所有の家を借り、共に2ヶ月を過ごした。二人は東京で軽井沢を宣伝し、翌年の明治20年の夏には友人十数人を連れて軽井沢で旅籠を移築して別荘を構えた。

翌22年には、東京帝国大学講師のノット、青山学院大学教師ヴェール、頌栄女学校講師ミス・アレキサンダーらが別荘を建て、ミス・アレキサンダーは女生徒20名を連れてきて林間学校を行う。これが林間学校の草分け。明治23年には英国公使館の別荘が建てられ外人避暑客が30数名となる。

明治26年には碓氷アプト式鉄道横川軽井沢間が開通し、直江津―軽井沢―横川―上野間が全通。8月には福井県代議士・海軍大佐八田裕次郎が日本人第1号の別荘を建設。雨宮新田で外人避暑客の指導者として活躍する導でかんらん(キャベツ)が初めて栽培され、袖山万蔵(山屋)が外人から教わり初めてパンを焼く。

明治27年養蚕籠にテニスコート第1号が出来、これが軽井沢テニス史の始まり。

明治29年、外国人は「避暑人会」を組織。外国人軽井沢村が出来、「飲む(酒)、打つ(博打)、買う(売春)禁止」の軽井沢憲法を決め、

注目されるのが、清涼な空気や緑、健康的な生活を中心とした軽井沢への転入者や、アウトレットを中心に雇用の増加で東京などからの若い転居者の増加。東京などへの通勤・通学住民の増大。

軽井沢はどう変化していくのか。どう進化していくことが21世紀の世界のブランド・聖地軽井沢として生き残り、日本の誇りとしての地位を維持しつづけるのかを考えてみたい。

ここに質素で清らかな清潔で、夜静かな今日の軽井沢の基礎が出来た。

明治32年、鹿島組現(鹿島建設)、貸し別荘6戸建設。

群馬県下仁田の神津牧場で軽井沢別荘族向け、バター牛乳クリーム製造が始まる。明治37年アメリカから帰国した佐藤万平は、桜の沢に本格的西洋ホテル「万平ホテル」を建てる。

明治39年、三笠ホテル営業開始、明治40年、初のスケートリンク開設、軽井沢のスケート史始まる。明治44年、木造2階建て洋館・軽井沢郵便局開業。避暑客宿泊者数・外国人新田で外人避暑客の指導者として活躍する導でかんらん(キャベツ)が初めて栽培され、袖山万蔵(山屋)が外人から教わり初めてパンを焼く。

明治27年養蚕籠にテニスコート第1号が出来、これが軽井沢テニス史の始まり。

明治29年、外国人は「避暑人会」を組織。外国人軽井沢村が出来、「飲む(酒)、打つ(博打)、買う(売春)禁止」の軽井沢憲法を決め、



緑にどけ込むようにひっそりと佇む別荘

軽井沢の歴史

外国人宣教師、外交官 文人らが基礎を築く

明治

000戸以上ある別荘の第1号となる。この年、デイクソンも佐藤万平の敷地内に宿場の